

阪神大震災特集

地震と病院図書室

大震災の経験

林 伴子

はじめに

1995年1月17日の大震災は淡路・阪神地区に多大な被害をもたらした。今後の参考になるかと思うので当院での経験を報告する。

当院は1948年に神戸市中央区に設立され、1986年3月に北区惣山町へ新築移転した。病床数402床、年間退院数約5300、1日平均外来患者数1100人の総合病院である。建物は地上7階、地下2階で図書室は7階東部分に位置している。

地震直後

当院は神戸市の北、六甲山系の裏側に位置するため、病院全体としてみれば被害は比較的少なかった。当初より電気、ガス、水道のライフラインは確保できたため、病院業務への支障はあまりなかった。

病院職員の人的被害はなかったが、肉親を亡くした者4名、家屋が倒壊した者15名をはじめ家屋の半壊や一部損傷は100名以上に及んだ。私は神戸市中央区に住んでいるため、地震当日は通勤手段が奪われ、電話連絡がとれたのも10時近くになってからであった。その時は書架などが倒れ込んでいるためか図書室、病歴室とも内開きのドアが開かないこと、そのため中の様子がわからないこと、他の図書室職員が無事であることを知った。翌日には天井のダクトを通して施設課職員が室内に

はやし ともこ：社会保険神戸中央病院図書室

入り何とかドアを開けることができたが、診療録や書籍、雑誌の散乱はすさまじく、とりあえずファクシミリ、パソコンを起こすのがやっとであった。

本来の日常的な業務を行うことなどは到底無理で、外来窓口業務の応援、後片付けに時間が過ぎた。

図書室の被害

図書室、製本雑誌、書庫内の物的被害は下記の通りである。

1. 木製書架 両面6段3連 3台中1台
 片面6段2連 6台中3台

上部の継ぎ目の破損、棚の破損、書籍はほとんど全部飛び出していて、一部は書架の下敷きになっていた。

2. 雑誌架 6段 4台、5段 1台

6段のものは2段重ねのものであったため折れるように倒れていて破損がひどかった。5段のものは倒れはしたものの見た目には破損は見られなかった。

3. 製本雑誌用スチール棚

全体が北方向に将棋倒しになりドアを塞ぐ形になった。棚はほとんどが歪み、製本雑誌は落下散乱していた。

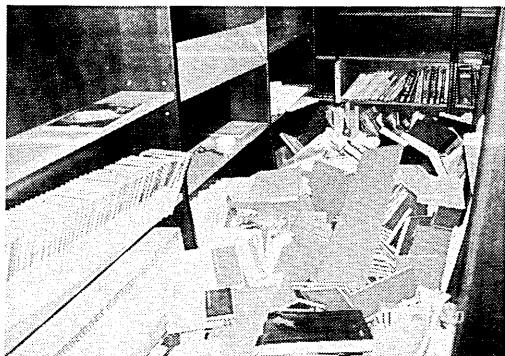
4. 閲覧用机・椅子

多少キズはあるものの使用可能。

5. O A 機器

パソコン2機（NEC PC-9801 DX, Macintosh Centris 610）は床に落ちていたが壊れなかった。プリンターは破損がひどく使

用不可であった。ファクシミリ1台は多少破損したが、使用には差し支えない。



◀ 棚から落下、床に散乱する書類とカルテ



復旧作業

20日になって通勤手段が確保でき、北区以外の地域の職員も出勤できるようになった。そこで本格的に復旧作業を開始したが、足の踏み場もないため、できるだけ廊下に運び出すことから始めた。

1. 病歴室

まずは診療録を整理し、利用できるようにすることが当面の課題となった。図書室職員3名だけでは見通しも立たなかったが、業務がストップしている健診センターからの応援を得て3月第3週には病歴室内に保管していた1991年から93年までの3年分、約16,000件を整理し直し、地下の倉庫に収納することができた。

また、散乱した個人別カードも庶務課からの応援を得て整理統合できた。

2. 図書室

2月はじめに病歴室の日常業務ができるようになってから、雑誌の整理を行った。なるべく製本に出して身軽になるようにしたが、散乱がひどく、揃えるだけでかなり時間がかかった。2月28日に118冊を製本業者に渡した。受け入れ雑誌の利用は展示する場所がないため床置きの中に入れてきたままで、雑誌架が3月30日に納入され、やっと通常の雑誌の利用ができるようになった。

書籍類は書架の納入が5月連休明けになる見通しで現在まだほとんど手つかずの状態である。

3. 製本雑誌書庫

他部署の応援を得て、7人で2日ばかりで全部の製本雑誌を運び出した。棚は歪みがひどく使用できない状態であった。4月に入って補修を行ったが、製本雑誌はまだ運び込むことができず廊下に積んだままの状態である。

4. 日常業務

前述したように、雑誌の受け入れは2月になってから行ったが、書籍の受け入れはほとんどしていない。

相互貸借は1月は震災後で0件であった。2月に入ってから多少落ち着くと依頼が始め、2月48件、3月73件と震災前の件数に戻ってきた。中には当院所蔵の文献も含まれているのだが、取り出すことができないため他施設へ依頼した。また、総合目録などどうしても必要な資料類がすぐには取り出せず、半数ちかくは業者への依頼となっている。

おわりに

病院としては軽微、しかし図書室は7階にあって揺れがひどくスチール棚、キャビネット、書架の倒壊や破損が大きかった。復旧作業を通して思うのはいかに人手が大切かということである。もの一つ運び出すにも人手が多ければ多いほどよく捗る。

震災後、早い時期に病図協からの被災状況

の問い合わせがあり、慰問や見舞金、ボランティアの申し出等の支援をいただいた。まだボランティアについては実現していないが人手はまだまだ必要で、何らかの形で手伝っていただければと考えている。

今回の地震は未明に起こったため職員の人的被害はなかったが、業務中であったならば我々もどんなことになっていたがわからない。棚の固定等を十分に行っていなかった点は反省すべきであるが、実際問題としてかなりの重量のある書架、キャビネットなどが動き、倒壊するとは想像もつかなかったことである。高さの低い書架で統一し、逃げられるスペー

スを確保して安全を期するのがいちばん良いのだが、スペースにゆとりのない病院図書室では到底無理であろう。とは言うものの、職員の安全、利用者の安全は第一に考えなければならないことである。今後は防災訓練等とっさの判断や動作を修得すべきであろう。

阪神大震災を経験して、当院での状況を報告したが、災害はいつ、いかなる時に、どこで起きるかわからない。日頃防災を心がけることが大事ではあるが、起こった後のことも考えておく必要があると思う。一施設だけではどうにもならない場合もあるので、図書室ネットワークでの支援体制の充実を期待したい。

KOSEISHA

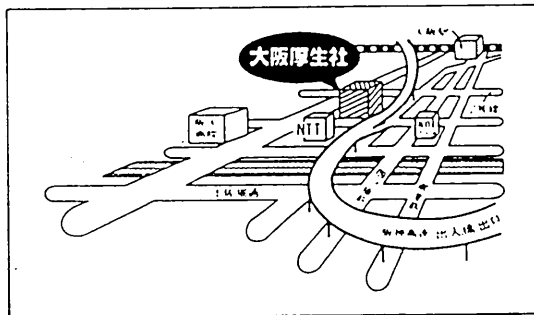
Since 1946

■鮮度のいい情報を大量にストック

メデイカル情報発信基地!

月刊医学情報 医学関連記事を全国21紙より抜粋(年間購読料22,000円)

- TOKYO
☎(03)3294-0021
- YOKOHAMA
☎(045)243-0181
- KANAZAWA
☎(0762)64-0791
- SHIGA-DAI
☎(0775)48-2091
- TOYOAKE
☎(0562)93-1821
- KYOTO
☎(075)761-2181
- MORIGUCHI
☎(06)992-1051
- TAKATSUKI
☎(0726)83-1161
- KINDAI
☎(0723)66-0221
- WAKAYAMA
☎(0734)33-4751



株式会社 厚生社 本社 〒530 大阪市北区堂島3-2-7 ☎(06)451-3711 Fax.(06)452-5080